

審議資料

3 活力・魅力部会

	ページ
1 働く場の確保と人材の育成	3-1
2 産業の振興による地域社会の活性化	
(1) 地域産業の活性化	3-2
(2) くらしを支える企業の育成	3-4
3 先進港神戸と神戸空港の機能強化	3-5
4 神戸の魅力発信と集客観光の強化	3-6
5 「知の集積」による新たな価値の創造	3-8
6 「技術の向上」による世界貢献	3-10
7 都市の創造性の向上	
(1) デザインを活かした「ものづくり」の支援	3-11
(2) 文化創生都市の推進によるまちづくりや賑わいの創出	3-12

1 働く場の確保と人材の育成

1 課題

近年、初めて職に就いた者の4割以上が非正規労働者になっており、その割合も増加傾向にあります。この傾向が続けば、失業や高齢化とあいまって市民の経済格差の拡大や社会不安が増大する恐れがあります。市民が能力を発揮し生きがいを感じる「全員参加型社会」をつくるためには、就業能力の向上や繰り返し就労に挑戦できるしくみが必要です。

また、技術革新の進歩や社会経済のグローバル化の進行により産業構造が変化し続けており、働く場と就労希望者のミスマッチが生じる可能性が高まるため、民・学・産と行政による働きたいと思う人の「働く場」の確保が必要です。

2. 取り組みの方向性

(1) 市民生活を支える基盤である安定した雇用の場を確保

- ・先端医療・情報などの成長産業、商工業・集客観光分野、健康福祉・教育分野、海陸空の物流分野などに関し、企業誘致などによる「働く場」の確保
- ・雇用や生産資本や顧客で地元と密接な関係をもつ、農業、商業、サービス業、社会的企業の振興による地元就業の促進
- ・公共工事の適正な分割などによる市内中小企業の参加機会の確保
- ・景気変動などに対応する中小企業融資による雇用の場の安定

(2) 雇用のミスマッチへの対応

- ・国の公共職業安定所の窓口による職業相談・職業紹介
- ・公共職業相談所、経済界、教育機関、NPO および労働界と連携した就業促進協議会の運営

(3) ワーク・ライフ・バランス戦略

- ・多様な働き方の前提となる待機児童の解消、学童保育および病児・病後児保育などのサービスの充実
- ・通勤時間の削減や多様な働き方が選択しやすい居住近隣地での仕事のマッチングのしくみづくり
- ・ICTを活用した新たな働き方（テレワークなど）の推進への支援
- ・入札制度と連動したワーク・ライフ・バランス認定企業への発注のしくみの検討

(4) 就業能力の向上

- ・情報通信や福祉、機械加工などの職業能力の向上のため、国の職業能力開発センターなどの活用
- ・65歳以上の就業希望者に「知識や技能を活かしたい」人が多いことを活用した、高齢の技能者による若者への技能の教授・伝達
- ・若年無業者が労働市場へ参加する前に訓練する場としての役割を果たす社会的企業への支援
- ・就業に向けた再訓練のための大学等を活用した学び直しに対する支援
- ・子育て後の再就職支援のため、介護や医療、事務処理技術の講座などの開催に対する支援
- ・障害者の地域での就労機会拡大に向けた支援やジョブコーチなどの一人ひとりに合わせた就業支援

2 産業の振興による地域社会の活性化

(1) 地域産業の活性化

1 課題

社会経済のグローバル化の進行による地域経済への影響に過度に左右されず安心してくらしを守るためには、農業、地場の工業、商業など地域に根ざした産業の活性化と地域で働く場を確保することがますます重要になっています。

神戸市内の農漁業については、地産地消と結びつきやすい都市近郊農業の利点がある一方で、農業従事者の高齢化や不耕作地の増加に対し、集落営農、新たな担い手の育成や参入などによる対策が求められています。

震災で影響を受けたケミカルシューズ産業では、依然全国シェアは高いもののグローバル化に伴い激しい国際競争にさらされています。

小売業では、少子高齢化に伴い事業所数などが大幅に減少しています。また、人口動態や地域経済の動向を受け、都心域内、連携拠点、地域拠点などで、販売額の動向など地域ごとの盛衰の差が見られます。

2 取り組みの方向性

(1) 市民の生活に結びついた農漁業の活性化

ア 神戸にあった農漁業の確立と担い手の育成

- ・安全で安心できる新鮮な農水産物が安定供給できる体制の充実
- ・農家の高齢化への対応や不耕作地の減少を目的とした、集落営農や作業受委託などの推進
- ・新規就農者や新規後継者の育成のためチャレンジファーム等の農業インキュベータの整備
- ・工業や流通サービス業など農業以外のノウハウを活用し、価値を加えた農業を営もうとする企業やNPOなどによる参入促進

イ 交流による地産地消の推進と農漁業の振興

- ・農漁業者、流通業者、サービス業者などによる多様な販売チャンネルの確立支援
- ・産官学の共同開発による特産品づくりの支援など、農商工連携や学との連携
- ・農村資源を活かした観光農漁業の推進
- ・こうべ版 GAP（Good Agricultural Practice：農業環境規範）による安全と環境保全の推進

(2) 地域の生活に結びついたものづくりの活性化

- ・生活文化産業における、地域内の製造者、販売者、消費者が刺激しあい発展していくための消費喚起に結びつく情報発信とブランドの向上
- ・予防医学とシューズ、食料品製造業や農漁業などにおいて、大学などの知の活用と技術を組み合わせた新たな価値創造の支援

(3) 地域の商店街、小売市場の活性化

ア 地域住民の基本的な生活基盤としての地域商業集積の維持

- ・市街地への居住促進、大規模店舗の郊外での出店抑制などによる、市街地への商業機能の集中促進
- ・地域特性を活かしたテーマ性のある取り組みによる商店街・小売市場の空き店舗解消
- ・顔と顔の見える関係を活かした単身高齢者向け商品・サービスの提供など、地域で必要とされるサービスの構築への支援

イ 地域の拠点となる商店街・小売市場の振興

- ・地域団体、NPO、学生と連携した「賑わいの場」の形成支援
- ・子育て世代や高齢者に向けた支援サービスの実施による「コミュニティの核」の機能を強化し、新たな顧客層の確保を支援

2 産業の振興による地域社会の活性化

(2) 暮らしを支える企業の育成

1 課題

女性の就業者の増加や家庭機能の縮小により、育児支援や教育・学習支援などへの市民ニーズが高まっています。また、高齢化の進展により、医療や福祉のサービス需要も年々高まっています。さらに、これらの社会経済状況の進展に伴い、地域社会における商業機能の弱体化など社会的意義をもって解決しなければならない課題が増加しています。

近年では、民間企業、NPOなど多様な主体で構成される社会的企業が、介護・福祉、子育て、地域交通、就業訓練などの個人や地域の課題のために、活動するケースが増えてきています。

若年層を中心に所得の格差が増加し、就業面での対応も必要となっています。これらの社会的企業には、若年無業者への就業支援や若者のスキルアップしていく場としての役割も期待されています。

2 取り組みの方向性

- (1) 家庭機能の支援サービスの活性化（介護支援、家事支援、子育て、学習指導等サービスを含む）
 - ・ 中小企業やNPO（中間支援団体を含む）などが行う支援サービスを、社会的意義とビジネスプランの点で評価した中小企業支援策の適用
 - ・ 協働できる組織や人材の出会いの場の提供

- (2) 社会的企業など多様な形態の参入
 - ・ 社会的企業の表彰制度およびNPOなどによる社会的企業の評価・ビジネスマッチングのしくみづくりへの支援
 - ・ 地域にある施設の管理への参入や、地元調整などを通じた支援
 - ・ 若年無業者などが、地域の課題解決をする仕事を通じて、通常の労働市場へ戻るきっかけとなる機会の提供と職業訓練を応援する社会的企業への支援
 - ・ 社会的意義とビジネスプランの評価に基づいたインキュベーション施設への入居など、社会的起業家への起業支援策

3 先進港神戸と神戸空港の機能強化

1 課題

アジア諸国の港湾整備の進展などにより、国際的な港間競争が激化しています。

船舶の大型化など、世界的な輸送革新の動きに対応した港湾施設の機能更新が必要です。

臨海産業エリアへ国内外からの産業立地を促進することにより、市民経済の活性化をはかる必要があります。

神戸港が神戸経済にとって依然重要な役割を果たすこと、また歴史的経緯や日本経済に果たす海上輸送の重要性を、市民が認識することにより、港への愛着を高めることも重要になります。

さらに、神戸の新しい交流窓口である神戸空港のさらなる利便性の向上のために、運用時間の延長など機能充実をはかることが重要です。

2 取り組みの方向性

(1) 国際水準の質の高い港湾機能を備えたみなとの形成

- ・ポートアイランド（第2期）と六甲アイランドにおける、コンテナ船の大型化に対応した大水深化や高規格化などによるスーパー中枢港湾の次世代高規格コンテナターミナルの形成、および耐震化による災害時に備えた物流の幹線の確保
- ・西日本のハブ港としてコンテナを中心とした物流機能の強化のため、効率的なターミナル運営による港湾物流のコスト・スピード・サービスの向上
- ・神戸港の物流ゾーンの経済的・歴史的価値を認識し、市民の財産として捉えた市民意識の醸成

(2) 多様な物流ニーズに対応できるみなとの形成

- ・海上輸送網、高速道路網、鉄道輸送網、空港機能の充実した海・空・陸のネットワークを有効活用した、荷主の多様な物流ニーズに対応できる利便性の高い物流拠点の形成
- ・瀬戸内・九州貨物の神戸港への集積を図るため、内航船へのインセンティブ充実などによる、内航フィーダー網の競争力強化

(3) 臨海産業エリアの用地の有効活用

- ・コンテナターミナルの再編・集約化・効率化をはかるとともに、新たな時代に対応した高度な物流機能および次世代の神戸を担う産業の集積をはかるため、六甲アイランド、ポートアイランド、神戸空港島の土地利用転換などによる産業用地の創出

(4) 利用者ニーズに対応できる神戸空港の機能充実

- ・航空路線ネットワークの拡充をはかるとともに、空港の運用時間延長、発着枠の拡大、国際ビジネス需要に対応するための国際便（ビジネスジェット・チャーター便）受入条件の緩和など機能充実に向けた取り組みの推進

4 神戸の魅力発信と集客観光の強化

1 課題

神戸への観光客を年齢別にみると、若者が約半数で、今後増加が見込まれる 60 歳以上の割合は低いままであり、また、観光客数は年々増加しているものの、六甲・摩耶や有馬温泉では震災前の水準には達していません。

一方、情報化の進展と旅慣れた観光客の増加により、神戸ならでの体験（スイーツ、清酒、洋食、中華、産業観光）を楽しむ着地型の観光の増加への対応が必要となっており、併せて地域経済や雇用への波及効果の高い滞在型観光を増やす必要もあります。

また、外国人旅行者は増加していますが、神戸は外国人観光客の訪問先の主要なルートから外れているため、今後とも何らかの対策が必要です。

2 取り組みの方向性

(1) オンラインの観光資源の活用

ア 市街地（北野、トアウェスト、乙仲通り・元町、南京町、旧居留地）と神戸港

- ・デザイン都市・神戸に基づいた観光資源としてのまちなみの保存・活用による魅力の向上
- ・レトロな雰囲気や漂う店舗づくりやマンション等の低層階への店舗の集積に連動した、まちの歩きやすさなどの回遊性の向上、オープンカフェなどの賑わいの醸成および情報発信
- ・旧居留地などにおける、まちの賑わいを神戸港につなげるための南北動線のアクセスの向上
- ・アジア・瀬戸内クルーズの母港としての機能強化

イ 六甲・摩耶と有馬

- ・健康・癒しをテーマとした六甲・摩耶と有馬の連携
- ・六甲・摩耶における初心者から健脚者まで楽しめる登山など、エコツーリズムの推進
- ・旅行業者、宿泊事業者、交通事業者と連携した六甲・摩耶へのアクセスの充実
- ・神戸の市街地および四国や近隣都市からの有馬へのアクセスの良さの更なる発信

(2) 着地型観光資源の国内外への発信

ア 市街地

- ・都心・ウォーターフロントや岡本・住吉など都心域でのスイーツ、カフェ、洋食、パンなど食文化を活かしたグルメ情報の発信のほか、灘の酒蔵における外国人観光客誘致や北神の酒米農家などと連携した神戸産の体験型観光の展開

イ 兵庫・長田

- ・兵庫運河や KOBE 鉄人プロジェクト、食文化・商店街めぐりなど、ユニークな町おこしを観光につなげる情報発信のほか、中世から近代までの歴史が息づくまちの情報発信、さらに修学旅行生などを対象とした地域の住民や企業との連携による震災学習や造船所・新幹線の車両工場などにおける産業観光の情報発信

ウ 須磨・垂水・西北神

- ・農作業体験などの体験観光や、神戸ブランドの農産物や海産物と食や直売所と組み合わせた観光の情報発信
- ・須磨海岸、須磨水族園、須磨ヨットハーバーなどの連携による海洋レクリエーション拠点の利用促進および地元のボランティアなどと連携による歴史資源に物語性を持たせた歴史観光の振興

(3) 神戸の魅力の発信

- ・観光特使など人的ネットワークを活かした口コミのほか、国内外の旅行会社やメディアの招致による神戸の魅力の発信
- ・体験観光、食事、イベントなどの観光情報が、ICTを活用し入手できる観光情報のおもてなし機能の検討

(4) 滞在型観光の推進

- ・宿泊施設と連携した神戸の着地型観光資源の情報提供
- ・旅行業者や交通事業者と一体となった海・まち・山の夜景観光の推進
- ・関西四都市や県内近隣市と協力した連泊型の観光の促進
- ・中国をはじめ増大する外国人旅行者の誘致をめざした国際観光の推進
- ・観光ガイド、案内板など多言語表記による外国人旅行者の受け入れ体制の強化

5 「知の集積」による新たな価値の創造

1 課題

産学官の連携により先端医療技術の研究開発拠点や医療関連産業を一層集積させ、「神戸医療産業都市構想」を推進するために、理化学研究所などの生命科学分野の世界的な成果を、市民の健康づくりや新産業の創出に結びつけ、イノベーションを加速させる必要があります。

このため、高度医療サービスを提供する機能や市民の科学的な健康づくりを支援する機能を具体化する必要があります。

さらに、国家プロジェクトである世界最高速の次世代スーパーコンピュータを中心に研究教育拠点（COE）の形成に取り組むとともに、ものづくりなど多様な分野において地元企業の活性化・高度化に役立てる必要があります。

グローバル経済のなかで関西メガ・リージョンにおける「知の拠点」を形成するため、世界から研究者などの優秀な知的な人財の集積をはかるとともに、海外のバイオメディカルクラスターとの連携により、世界的なバイオメディカルクラスター（将来目標として500社程度の集積）をめざしていきます。

2 取り組みの方向性

(1) 神戸医療産業都市構想の推進

- ・優秀な臨床医や研究者等の集積によりイノベーション創出を加速する「メディカルイノベーションシステム」の展開
- ・新中央市民病院を臨床の核とし、周辺に「高度専門医療分野に特化した医療機関」と優秀な臨床医を集積させ、市民をはじめとする国内外の患者への高度専門医療サービスの提供と医薬品・医療機器メーカーの新たな事業機会を創出する「メディカルクラスター」の形成
- ・地域の知の拠点を中心とした「ヘルスケア・コンソーシアム」の形成と地場産業・異分野企業の参画を促進するしくみの構築、また、市民参画によるICTを活用した要介護率低下の取り組みなど健康長寿都市の実現に向けた検討など「健康を楽しむまちづくり」の推進
- ・基礎研究機能の強化のため、新たな研究機関・大学等の誘致および既存研究機関のネットワーク強化
- ・先端医療研究に関する分かりやすい情報提供および市民や事業者からの新たな資金協力のしくみづくり

(2) 次世代スーパーコンピュータの利活用

- ・国家基幹技術として、世界最先端・最高性能の次世代スーパーコンピュータを核とした世界最高水準のスーパーコンピューティング研究教育拠点（COE）の形成
- ・地域経済の活性化のため、次世代スーパーコンピュータを利活用したシミュレーションによる新製品の開発や研究開発コスト削減に取り組む事業者へのステップアップ支援

(3) 大学など知の活用

ア 大学・研究機関などの知の活用

- ・企業が集積する産業団地や市などのインキュベーション施設での大学の研究機関の誘致
- ・医療産業都市構想における先端医療センターおよび理化学研究所 発生・再生科学総合研究セン

ターや次世代スーパーコンピュータなどと連携した、大学による大学発のベンチャーを目指すインキュベーションセンターの展開、およびバイオ、分子、ナノなど先端融合領域での社会人教育の実施

- ・次世代スーパーコンピュータを利活用できる人材を育成する大学と連携し、市内企業のシミュレーションなどのスーパーコンピュータ活用ニーズと、大学・研究機関での研究開発との実証研究のマッチングの実施

イ 世界に向けての知の広域ネットワークの形成

- ・医療産業都市構想における海外バイオクラスターとの連携
- ・理化学研究所施設（スプリング8やXFEL）との連携
- ・アソシエーションビジネス（学会誘致や学会事務局の誘致を通じたコパ・ソソ）の振興

ウ 神戸らしさを活かした海外人材との集積・交流

- ・外国人向けの教育機関、外国語対応医療などの住環境の良さを活かした海外人材の集積
- ・日中間のビジネスを志す留学生・留学経験者が神戸で起業する際のワンストップ支援とインキュベーション施設の運営

6 「技術の向上」による世界貢献

1 課題

神戸市東部や兵庫運河を中心とする臨海産業エリアには、神戸経済を支え、高いシェアを占める一般機械（原動機、産業用機械）、輸送用機械（鉄道車両、造船）などの製造拠点や研究所が立地しています。一方西北神の内陸新産業エリアには、情報通信機械や医療機器などの製造拠点や研究所が立地しています。神戸経済を支えるこれらの基幹産業の集積の維持・発展とともに、これらと取引のある市内中小企業が、大学などとの連携による技術開発を通じた技術の高度化や人材育成の支援を促進することにより、将来の神戸経済の活性化をはかっていく必要があります。

特に、新たな成長が見込まれ、国内トップシェアを誇る鉄道車両・原子力発電関連機器などでは、新技術の開発、国際的な販路拡大により、低炭素社会に貢献することが期待されます。

2 取り組みの方向性

(1) 新たな成長分野で活躍する企業の集積と展開

- ・低炭素社会に貢献するインフラ整備やエネルギー関連分野（鉄道車両・原子力発電関連機器、高効率の発電設備、太陽光や風力発電など再生可能エネルギー関連など）の産業振興と製品開発のためのインセンティブの検討や都市システム導入の検討

(2) 産学官連携による優れたものづくり技術開発の支援

- ・大学や研究機関の研究者など、新分野開発に求心力のある「人財」（キーマン）を産業振興の核として位置づけ
- ・中小企業と大学・研究機関との技術交流と知の移転の場の形成の支援
- ・技術の高度化や新製品の開発等に取り組むための研究開発機器の共同利用に対する支援
- ・兵庫区の南部など企業の集積する場所での既存施設などを活用した、中小企業と大学や高専の研究者が共同研究開発しやすい大学サテライトラボの整備や機能の強化
- ・次世代スーパーコンピュータを利活用したシミュレーションによる新製品開発などへの活用

(3) 新産業創造に向けての起業家などへの支援

- ・市場の発展段階にある再生可能エネルギー、ロボットテクノロジーなどの開発について、中小企業の新規参入を促進するために必要な大学などとの連携の推進
- ・新分野への進出に取り組む中小・ベンチャー企業などの有望な事業計画に対する、補助や融資、インキュベーション施設への入居、事業経営の学習会を組み合わせた、起業家・第2創業支援
- ・コンテンツ産業の集積やICTを活用したデジタル新産業の起業・第2創業の支援

(4) ものづくり企業の販路開拓支援

- ・市内中小企業の受注の増大を図るため、大企業も参加する商談会など受注機会の創出
- ・ICTの利用促進による生産性の向上や全国・海外への販路開拓支援
- ・中国への市場展開を試みる地元企業を対象とした物産展の開催など、中国市場への販路開拓のための支援

7 都市の創造性の向上

(1) デザインを活かした「ものづくり」の支援

1 課題

デザイン都市・神戸を推進し、日常的な生活の中でも、デザインに出会い、創造性を育む機会を充実し、市民がデザインを評価・選択する風土を醸成することが必要になります。

デザインを志向する中小企業が、外部のデザイナーと共同して仕事をするきっかけをつくるとともに、商品・サービスの企画・製造・販売に至るまで、連携できるしくみが必要になります。さらに、デザインを生み出す企業が成り立ち、付加価値を向上させ、企業を集積させるしくみが必要になります。

また、これまでのファッション都市づくりの成果を土台に、アパレル・洋菓子などではブランド力を高めて、国内外の市場をターゲットにした商品の販路を拡大することが必要になります。

2 取り組みの方向性

(1) デザインを重視した中小企業の競争力強化への支援

- ・デザイン事務所が集積し、中小企業が訪問できる拠点づくり
- ・外部デザイナー情報の集約と提供
- ・使いやすい機能や美といったデザインを重視し、高付加価値を生む製品や店舗展開による経営を行おうとする企業の属する業界が実施するデザインコンペなど、デザイナーとの結びつきの支援
- ・異業種分野（機械金属と健康、洋菓子と工業デザインなど）とのデザインを中心とした交流・共同作業の支援を通じた、若手デザイナーの活躍の場の提供と製品の付加価値の向上
- ・ユネスコの創造都市ネットワーク認定都市との連携・交流を通じた神戸のデザインの発信

(2) アパレル、シューズなどのデザイナーの人材発掘と国内外での情報発信の支援

- ・人材を発掘しビジネスへと繋げるため、アパレルやシューズのバイヤーが若手デザイナーの商品を、市場性とデザインから審査するコンテストへの支援
- ・情報発信と販路拡大のため、日本最大級のファッションイベント「神戸コレクション」を核とする「神戸ファッションウィーク」の展開など、国外（中国）・国内のメディアを取り込んだ情報の発信
- ・機能とこだわりを融合しやすい神戸家具、神戸靴など神戸の伝統産業とデザイナーとの融合支援

(3) 洋菓子など食に関する産業の人材育成と国内外での情報発信の支援

- ・洋菓子業界内での職人による人材育成システムを補完するコンテストなどの支援
- ・神戸の食のブランドイメージと神戸の都市ブランドの向上との相乗効果を発揮させる情報発信

(4) 機械金属産業におけるプロダクトデザインへの支援

- ・機械金属産業において、技術開発とともに、競争力とアイデンティティの要素となるプロダクト（製品）デザインに対する大学や高専の研究機関と共同した支援

7 都市の創造性の向上

(2) 文化創生都市の推進によるまちづくりや賑わいの創出

1 課題

文化は生活に潤いや安らぎを与えてくれるものであり、阪神・淡路大震災から街や地域が復興していく過程でも多くの市民を励まし、勇気付けてきました。また、社会経済のグローバル化の進行による没個性化のなかで、地域や都市、生活スタイルのアイデンティティなどローカルな個性が重要になっています。

神戸市では、文化は市民が自発的に創造するものであり、豊かな市民生活を実現する上で文化の振興は重要な要素であるという認識に立ち、震災 10 年を機に「神戸文化創生都市宣言」を行いました。

その実現のためには、市民が文化に学び、芸術に磨かれるためのまちづくりを行うこと、地域の文化の魅力を高めること、芸術や地域の文化を活かし生き生きとしたまちの賑わいや活力を生み出していくことなどを実現していく必要があります。

2 取り組みの方向性

(1) アーティストが集い、活躍するまちづくり

- ・ 芸術家が国内外に羽ばたく登竜門となる芸術・文化のコンペティションの実施によるアーティストなどが育ち、活躍する機会の創出
- ・ 既存施設の転活用などによるアーティストなどが集い、活躍する拠点づくりの支援
- ・ 街角や公園、ビルのオープンスペースなど身近な場所でアーティスト等が成果を披露する機会の提供
- ・ NPO、ボランティア、企業など多様な主体による芸術・文化活動を支えるしくみづくり

(2) 芸術・文化を活かした賑わいの創出

- ・ 芸術・文化の振興とまちににぎわい創出のための、芸術・文化コンペティションの誘致
- ・ 神戸のアイデンティティ強化とまちの賑わいのため、神戸が「発祥の地」である「ジャズ」、「映画」、「洋菓子」、「アパレル」など文化についてのイベントの実施など、効果的な情報発信
- ・ 街角や公園、ビルのオープンスペースなど身近な場所で市民や来街者が気軽に芸術・文化に触れられる機会の創出

(3) 地域の特性を活かしたまちのブランドの創造・発信

- ・ 住みたい街、住み続けたいまちをめざすため、市街地から身近な緑が感じられる六甲摩耶、御影・岡本・六甲界隈の住民によって磨かれた生活文化や住環境の良さ、北野・旧居留地などでの培ってきた異国情緒と多文化を活かしたまち、長田の食文化などらしとまちと産業を掛け合わせた発信など、地域の特性を活かしたまちのブランドの創造・発信

3 くらしに安全と安心をもたらす

(3) 生きがいのあるくらしをすすめる

1 課題

生きがいをもってくらせる社会の実現のため、市民の生涯学習の機会や身近にスポーツに親しむ機会のさらなる充実や、市民文化の裾野を広げて、芸術文化活動を行う主体をつなぎ合わせ、互いに高めあうことのできる人的ネットワークを広げることが必要になります。

2 取り組みの方向性

(1) スポーツの充実

- ・「する」「みる」「ささえる」スポーツの振興による、市民がいつでも誰でもスポーツに参加でき健康づくりができるまちの実現
- ・地域のだれもが気軽にスポーツに親しめる機会や、ボランティアとしてスポーツを支える機会の充実

(2) 生涯学習の推進

- ・民間事業者や大学等との連携による多様なニーズに応じた学習機会の提供など市民の主体的な生涯学習活動への支援の推進
- ・生涯学習で学んだ成果を地域社会に還元するための人材登録や活動場所の提供等のしくみづくり

(3) 市民の主体的な文化活動への支援

- ・市民の主体的な芸術・文化活動の促進に向けた、情報発信や助成制度等による支援
- ・市民がニーズに応じて、芸術・文化活動への参加や体験ができるしくみづくり
- ・学校での公演や博物館・美術館等との連携等を通じ、子どもの頃から芸術・文化を身近に体験できるしくみづくり
- ・地域のさまざまな文化資源や、身近な場（まちかど、商店街、学校、プライベートギャラリー等）などを活用した、地域主体の芸術・文化活動の促進